

TRY部



なくした自信を取り戻せ！ D.Live 活動紹介

TRY部の取り組み

NPO法人D.Liveでは、子どもたちの自信を育むための教室であるTRY部を滋賀県草津市でおこなっております。

生徒は、小学生高学年から高校生まで。子どもたちは、学年に関わらず一緒に授業に取り組めます。この教室でおこなうのは、学校の勉強ではありません。授業のメインは、計画とふり返り。それぞれの生徒がなりたいた自分を描き、目標を設定するのです。翌週には、実際にどれくらい出来たのかをふり返り、生徒同士で共有をおこないます。

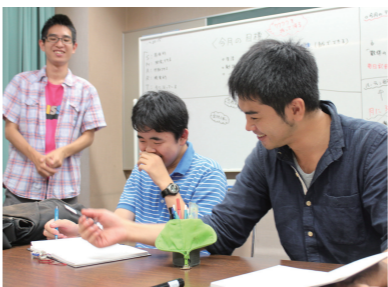
大切にしているのは、子どもたちにとっての居場所となること。生徒は、「ここならなんでも言える」「どんなことを言っても聞いてくれる」と言います。

不登校で「学校へ行きたいけど行けない」と悩んでいる子や自分に自信が持てずにしんどく感じている子、学校は楽しいけど勉強がなかなか出来ない子どもなどさまざまな子が教室へ来ています。TRY部は『子どもがみずからガンバるようにするところ』です。目標も子ども自身で決めます。スタッフ

は、ただただ寄り添い聞き役に徹しています。どうすれば出来るようになるのか。なぜ出来なかったのか。うまくいかないことに対して、どうやっていくのかを一緒に考えるのです。

授業では、『マイプロジェクト』という発表の時間が毎月あります。生徒もスタッフも自分のチャレンジを語ります。「大人でも失敗する」「チャレンジして楽しいもの」というのを伝えたいと思っではじめた企画。どんどん発表もうまくなり、口頭での発表が今ではパワーポイントを駆使するまでに。

出来ないことを見るのではなく、どうすれば出来るようになるかを考える。それをサポートするのがTRY部です。



代表インタビュー

D.Live代表の田中が子どもと関わるときに大切にしていることをお話しさせていただきました。

— TRY部では、子どもたちがどんどん自信をつけていくそうですが、関わり方のコツはありますか？

まず、大切にしていることはその子のあるがままを受け入れることです。目標が立てられない子にも、無理矢理「計画を立てなさい」とは言いません。「立てたくない」という意思を尊重するのです。

— 子どもを尊重しすぎると自分勝手に思うように思うのですが、いかがでしょうか？

子どもが「やりたくない」というのにはきつと理由があります。わからないのかもしれない。目標が考えられないのかもしれない。一方的に「やりなさい」というのではなく、その子の「やりたくない」という気持ちに寄り添い、まずは原因を探すことから始めます。原因が解決したら、子どもは素直なのでしつかり取り組んでく

れますよ。

— TRY部にはじめて来た生徒への関わりで大切にしていることを教えてください。

「あつ、ここは自分がいてもいいんだ」と思えることをはじめは大切にしています。

関わりかたは、その子のあるがままを受け止め、じっくり耳を傾ける。距離感も慎重に。適度に離れつつ、でも「キミに関心があるよ」というメッセージは常に送る。そうしていくと、少しずつ心を開くようになってくれます。

— まずは関係性を作ることが大切ですね。では、信頼関係が出来たあとどのようなことを心がけていらつしやいますか？

なりたいた自分や目標をその子と一緒に探します。「やりたいことがない」と言う子がいますが、それは事実ではありません。自信がない、じっくり考えたことがないだけで、誰でもやりたいことはあります。ただ、出てこないだけです。

— やりたいことが出てこないときは、どのように接するのでしょうか？

夢とか大きな目標は出てこないです。だから、はじめは「ガンバったら出来ること」出来るようになりたいたいことを聞きます。

子どもによつては、「忘れ物をしない」「早く起きる」なんて目標が出てくるんです。大事なものは、大人が「その目標は低すぎる！」と判断しないこと。「いや、もつと夢を持とう！」なんて言うと、子どもたちは自分が否定された気になつてしまいます。

大人からすると「低すぎる」と思うような目標でもいいんです。子どもが「やりたい！」「達成したい！」と心から思える目標ならどんなことでもオッケーですよ。

— 子どもたちから出てきた「やりたい」という気持ちが大切なんです。

目標は低くていいんです。小さいことが一つ一つ出来るようになって成功体験になり、自信につながります。うちの生徒が「毎日1

分机に向かつて勉強をする」という目標を立てたんです。

翌週、「余裕やつたわ！」と言いき、意気揚々と次の目標を「1分半勉強する」にしてみました。大人からすると少しバカみたいですが、本人にしてみたらとても大きなことなんです。今まで10秒も机に向かえなかつたのですから。

— どうしても大人から見ると「目標が低い」と思ってしまうですね。

子どもたちと関わる時に、チューニングをすこく大事にしています。大人目線で考えるのではなく、子どもたちに合わせる。それが寄り添うだと思ふのです。接するときは、出来るだけ自然体を心がけています。

こちらがあるがままを見せると、子どもたちも自分をさらけ出してくれます。子どもと関わることは、楽しいですが大変なことも多いですよ。だからこそ、自然体で無理せずに接することが大切だと思っています。



NPO法人D.Live (ドライブ)

代表理事：田中 洋輔

<https://www.dlive.jp>

fb.com/NPO.D.Live

[@NPO_DLive](https://twitter.com/NPO_DLive)

D.Liveは、2009年より京都で活動をはじめ、現在は滋賀県草津市を中心に活動中。代表である田中は高校、大学と不登校を経験。「自分と同じような思いをして欲しくない」と思い、この団体を設立。しんどい思いをしている子どもの背景には自尊感情が関わっていることを知り、この問題に取り組むように。自尊感情が低い子どもたちを救うためには、自分たちの活動だけではいけないと考え、教室運営だけでなく、先生や保護者向けの事業も実施している。講演活動や自尊感情の勉強会、当冊子の作成などをおこない、子どもと関わるすべての人たちと共に子どもの未来を変えていきたいと思い活動している。